

岡山県金融経済月報

1. 概況

県内景気は、輸出・生産に弱さがみられるものの、内需の底堅い動きもあり、緩やかに拡大しつつある。

最終需要面をみると、個人消費は、天候要因による振れを伴いつつも基調としては持ち直している。設備投資は、高水準を維持している。住宅投資は、増勢が一服している。公共投資は、増加している。輸出は、減少している。

こうしたもとの、県内主要製造業の生産は、一部に弱さがみられるものの、基調としては増加している。

雇用・所得環境をみると、労働需給が引き締まった状態が続いているほか、雇用者所得は改善を続けている。

2. 実体経済

(1) 個人消費

個人消費は、天候要因による振れを伴いつつも基調としては持ち直している。

百貨店およびスーパー売上高は、天候要因による振れを伴いつつも基調としては持ち直している。乗用車販売は、持ち直している。家電販売は、天候要因による振れを伴いつつも基調としては持ち直している。この間、旅行取扱高は、前年を上回った。主要観光地への入り込みは、前年を上回った。

(2) 設備投資

県内企業の設備投資は、高水準を維持している。

19/6月短観調査における設備投資額は、18年度は、製造業、非製造業ともに前年を上回った。19年度は、製造業が増加する一方、非製造業が減少することから、全体では減少計画となっている。

この間、着工建築物床面積（非居住用<5月～7月>）は、前年を下回った。

(3) 住宅投資

住宅投資は、増勢が一服している。

7月の県内新設住宅着工戸数をみると、貸家系は前年を下回ったものの、持家系が前年を上回ったため、全体では前年を上回った。

(4) 公共投資

公共投資は、増加している。

発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、7月は、「市町村」や「県」を中心に前年を上回った。

(5) 輸 出

輸出は、減少している。

7月の県内輸出（通関実績）をみると、石油製品を中心に前年を下回った。

(6) 生 産

県内主要製造業の生産は、一部に弱さがみられるものの、基調としては増加している。

6月の県内鉱工業生産指数（直近計数）の季調済前月比は、4か月振りに低下した。

主 要 製 造 業 の 生 産 動 向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	増加している。
鉄 鋼	弱含んでいる。
石油化学	弱めの動きとなっている。
石油精製	持ち直している。
造 船	持ち直している。
織 維	弱めの動きとなっている。
電気機械	弱めの動きとなっている。
耐 火 物	横ばい圏内の動きとなっている。
農 機 具	減少に歯止めがかかってきている。
工作機械	高めの生産水準となっている。

(7) 雇用・所得

雇用・所得環境をみると、労働需給が引き締まった状態が続いているほか、雇用者所得は改善が続いている。

労働需給面をみると、有効求人倍率は、高水準で推移している。6月の所定外労働時間は、前年並みとなった。

雇用面をみると、6月の常用労働者数は、前年を上回った。7月の解雇者数、雇用保険受給者数は、ともに前年を上回った。

賃金面をみると、6月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回った。

(8) 物 価

7月の岡山市消費者物価指数（2015年基準、生鮮食品を除くベース）は、教養娯楽や光熱・水道を中心に前年を上回った。

(9) 企業倒産

7月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数、負債総額ともに前年を上回った。

3. 金 融

(1) 実質預金

7月の県内実質預金をみると、全体では前年を上回った。

(2) 貸 出

7月の県内貸出をみると、全体では前年を上回った。

(3) 貸出約定平均金利

7月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は、前月比上昇した。ストック金利(同)は、前月比低下した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707 岡山市北区丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111 (代表)

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>